

オシドリに会いに来たよ！

東京都杉並区の小学生が来町

毎年オシドリのえさになるドングリを拾って送ってくれている、西田小学校(東京都杉並区)の3年生が、3月29日にまちを訪れました。きっかけは、西田小学校教諭の佐々木幹夫さん(舟場出身)が、日野町のオシドリやえさのドングリのことを授業で話したこと。子どもたちはすぐに興味を持ち、ドングリを拾って、オシドリ観察小屋へ送ってくれるようになりました。その取り組みの様子は、「広報ひの 平成16年11月号」でも紹介しました。今回訪れたのは、その取材した子どもたちを含む4人の児童です。



「3日間よろしくお願いします！」出迎えの皆さんと記念撮影



「オシドリいっぱいいるよ～！」



「私たちが拾ったドングリ食べてね！」

特急やくもで根雨駅に降り立った4人は、出迎えたオシドリグループの皆さんに元気にあいさつ、オシドリ観察小屋へ向かいました。観察小屋からは、歓迎するかのようによびよる約500羽のオシドリが見え、子どもたちは初めて見る日野町のオシドリの姿に「生で見るとすごく可愛い」「きれいなオシドリがたくさん見えて最高！」など口々に感想を話しながら観察していました。夕方には、観察小屋前の河原でえさまきを体験し、子どもたちは自分たちが拾ったドングリを実際に川にまくことができて満足そうでした。ドングリ拾いについて国分敦智さん(3年生)は、「近所の神社や公園でドングリを拾っています。オシドリにたくさん食べてもらうためにこれからも拾いつづけます」

と話しました。また、中島清美さん(3年生)は、「日野町は東京と違って空気が川がすごくきれいでいいところですね」とまちの印象を話してくれました。4人は、帰郷した佐々木さんの家に泊まり、翌日もオシドリ観察やえさまき体験、町内の観光などをして3日間をまちで過ごしました。佐々木さんは「子どもたちが東京でドングリを拾いながら、オシドリが見たいとつづやっていたことが実現できました。日野の自然に囲まれて、いい経験になったと思います。子どもたちが住む近辺にもドングリのなる木がだいぶ少なくなってきましたが、この交流がこれからも続いていくことを願っています」と3日間を振り返りました。



子どもたちを取材した「広報ひの 平成16年11月号」より

夜の桜も見に来てね

塔の峰公園ぼんぼり取り付け

まちの桜の名所、塔の峰公園（本郷）の桜を夜間にライトアップし、夜桜を楽しんでもらおうと、4月3日、ぼんぼりの取り付け作業が行われました。

作業は、町建築協会の会員7人によるボランティアで行われ、公園の歩道沿いに約100個のぼんぼりを木から木へと取り付けていました。

このぼんぼりは、桜シーズンの終わりで夜間に点灯し、桜の花を幻想的に染めあげます。



作業は半日で手際よく行われました

防火の誓い新たに

町消防団出初式・任命式

一年間の防火を誓う、町消防団の出初式・任命式が、4月9日、根雨小学校グラウンドで開かれました。

式では、団員の各種表彰の後、宮脇光男団長をはじめ、副団長から班長までの団員が任命されました。宮脇団長は、「いま消防団には、国民保護や女性消防団員の結成など課題も多くある。気を引き締めて訓練に励んでもらいたい」とあいさつ、団員を前に士気を高めました。

式典の後、野田橋下の河川敷からの一斉放水が行われ、団員たちは防火の誓いを新たにしました。



壮麗な水のアーチを描く一斉放水

川との格闘技

県力又一選手権大会

春の日野川の恒例イベント、鳥取県力又一選手権大会が、4月9日、安原力又一の里特設コースで開かれました。

今回で23回目となる大会には、県内をはじめ、滋賀県、兵庫県など西日本各地からの選手約50人が参加、スラロームとワイルドウォーターの2種目で腕を競いました。

鳥取県勢は、昨年国体で2連覇を果たした福本かな子選手（日野高校教諭）がワイルドウォーターの部で準優勝するなど、大健闘しました。



鮮やかなパドルさばきで激流に挑む